

平成 30 年北海道胆振東部地震から 4 年を迎えて

北海道で初めて震度7を記録した平成30年北海道胆振東部地震から、今日で4年を迎えました。最愛のご家族やご親戚、ご友人を失われた方々のお気持ちを思うと、今なお哀惜の念に堪えません。改めてこの震災で犠牲となられた全ての御霊に対して、謹んで哀悼の誠を捧げます。

4年という時を経てもなお、発災当時の信じがたい光景が臉に浮かびます。犠牲者の捜索に一縷の望みを託す家族や友人の祈り、現状を把握しきれずに避難されてきた町民の不安げな表情を決して忘れることはありません。一方で、自分のことより、知人や友人を気に掛ける町民や職員の姿に、生きる者としての使命感や共に歩むものとしての信頼が心の中に芽生え、その後の復旧事業を加速させてきました。

国や北海道、厚真町施行における社会・産業インフラ災害復旧事業は、膨大なものとなりましたが、何れも、町民の皆さんの理解と協力をいただいた結果による達成状況であると改めて感謝申し上げます。森林再生はこれまでの取り組みを本年度からさらに加速させ令和8年度まで重点的に取り組んでまいります。

折に触れ、私たちは決して立ち止まらないと決意を新たにしてまいりましたが、災害復旧が進んでいる今、本町は、復旧から復興への取り組みにも挑戦を始めています。庁舎周辺整備や防災減災対策、省エネルギー・創エネルギー・吸収源対策を官・民・学で総合的に取り組んでいくゼロ・カーボン推進、一次産業を中心に IoT、ICT の推進などグリーン×グリーン×デジタル政策を構想しています。発災当時に語られていた「悲しいまちでは終わらない」から現在では「決して諦めないまち」へと挑戦をキーワードに深化を遂げています。

未曾有の困難にあっても、私たちは決して復旧・復興への想いを閉ざすことなく、ここまで復旧を進めることができましたが、一方で、被災された町民の皆さんが抱える不安、悩みはこの短期間では、決して癒されるものではありません。それぞれの明日に対する不安をできるだけ軽減し、個々の課題解決のため被災者に寄り添い誰一人として取り残すことのない復旧・復興を目指して、たゆまぬ努力を続けてまいります。

これから先も新たな困難に直面すると思いますが、北海道胆振東部地震からの復旧・復興を最優先としながら、その先にある創生への道と持続的発展に向けた歩みを加速してまいります。

これまでの間、災害復旧事業・捜索活動にご尽力を賜りました関係機関、ボランティア活動に駆けつけていただいた皆様や物心両面にわたりご支援を賜りました大勢の皆さんに改めて心より感謝申し上げます。

最後になりますが、犠牲となられた37名の御霊が永遠に安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆さま、町民皆さまのご平安とご健勝を心からご祈念し上げ、町民の皆さまへのメッセージとさせていただきます。

令和4年9月6日

厚真町長 宮坂尚市朗